

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度		開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科			
科目名称	栄養教育論実習Ⅱ							授業形態		実習		
科目コード	303200	単位数	1単位		配当学年	3		実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	原口 直樹										ICT活用	○
授業概要	本科目では、「栄養教育論実習Ⅰ」で作成した栄養教育計画を基礎として、臨床および地域・行政における集団栄養教育の計画、実施、評価および改善について実践的に学修する。 臨床場面では、糖尿病、心血管疾患、腎疾患等の設定事例を用いて、傷病者の病態、治療方針、生活背景および栄養課題に応じた集団栄養教育を計画・実施する。地域・行政場面では、地域の健康・栄養課題を題材として、地域住民を対象とした栄養教育を企画する。宮崎市との地域連携では、「野菜を1日70gプラスする」ことをテーマとして、対象者が家庭で実践しやすい時短調理法や具体的な食行動を検討し、実際に調理・撮影を行い、短時間で理解し実践につながる動画等の栄養教育媒体を制作する。 実習では、アセスメント、課題抽出、目標設定、栄養教育計画、指導案・講義計画、教材・媒体作成、調理実習、動画撮影・編集、模擬集団栄養教育、地域連携型栄養教育、評価データの収集・集計・分析、結果の解釈および改善まで、栄養教育マネジメントの一連の過程を経験する。さらに、生成AI等のICTを活用し、アセスメント結果の整理、栄養教育計画、講義計画、指導案、教材・媒体、動画構成の作成を行う。											
関連する科目	「栄養教育総論」「栄養教育各論Ⅰ」「Ⅱ」および「栄養教育論実習Ⅰ」で学修した、行動科学、栄養カウンセリング、アセスメント、目標設定、計画立案、教材・媒体作成および評価に関する知識・技能を基礎として実習を行う。											
授業の進め方 と方法	また、調理学、調理学実習、食事計画論、食事計画論実習、臨床栄養学等で修得した栄養・調理・病態に関する知識・技能を統合し、傷病者および地域住民の課題に応じた実践的な栄養教育へ応用する。											
	授業は、集団を対象とした栄養教育の実践を中心に、グループワーク、問題解決型学習、教材・媒体作成、調理実習、動画撮影・編集、模擬集団栄養教育、地域連携型栄養教育、プレゼンテーション、相互評価および振り返りを取り入れて進める。各グループは、アセスメント結果を基に、対象集団のライフステージ、病態、健康・栄養課題、生活背景、価値観および学習ニーズを整理し、学習目標、行動目標、教育内容、実施方法および評価指標を設定する。											
	臨床集団栄養教育では、傷病者を想定した設定事例を用いて、病態や治療方針を踏まえた講義計画、指導案、教材・媒体を作成し、模擬集団栄養教育を実施する。											
	地域連携実習では、宮崎市が推進する健康・栄養課題等を題材として、地域住民を対象とした栄養教育企画を検討する。「野菜を1日70gプラスする」ことをテーマとした課題では、対象者が家庭で無理なく実践できる時短調理法や具体的な食行動を検討し、レシピ、調理工程、栄養教育媒体および短時間動画を作成する。											
授業計画【第1回】	集団栄養教育の実施・評価の理解 「栄養教育論実習Ⅰ」で作成した栄養教育全体計画を振り返り、本実習で行う実施、評価、フィードバックおよび改善の流れを確認する。											
授業計画【第2回】	対象集団の再アセスメント 既存のアセスメント結果を整理し、対象集団のライフステージ、健康・栄養課題、生活背景、価値観および学習ニーズを再確認する。											
授業計画【第3回】	集団栄養教育計画の修正 課題の優先順位を検討し、学習目標、行動目標、教育内容、実施方法および評価指標を修正する。											
授業計画【第4回】	臨床における集団栄養教育の計画 糖尿病、心血管疾患、腎疾患等の設定事例を用い、病態、治療方針、栄養課題、生活背景を整理し、臨床場面における集団栄養教育の目標、教育内容、実施方法および評価指標を検討する。											
授業計画【第5回】	教臨床集団栄養教育の教材・指導案作成 傷病者の病態、理解度、生活背景および治療状況に配慮した指導案、講義計画および教材・媒体を作成する。必要に応じて生成AI等を活用し、科学的根拠、正確性および表現の適切性を検証する。											
授業計画【第6回】	臨床集団栄養教育の模擬実践 作成した指導案と教材を用いて模擬集団栄養教育を実施する。対象者役の学生の反応、理解度、説明方法、参加の促し方および時間配分等を評価し、改善点を検討する。											
授業計画【第7回】	地域課題に基づく栄養教育企画 地域の健康・栄養課題を整理し、対象集団、行動目標、教育内容および情報発信方法を検討する。宮崎市との地域連携を想定し、「野菜を1日70gプラスする」ための具体的な食行動案を検討する。											
授業計画【第8回】	生成AIを活用した教材・媒体企画 生成AI等を活用して教材、講義計画、指導案、動画構成案、台本等を作成する。生成内容について、科学的根拠、正確性、対象者への適合性、著作権および情報倫理の観点から検証する。											
授業計画【第9回】	時短調理・動画教材の企画 「野菜70gプラス」を実践するための時短調理法を検討し、使用食材、レシピ、野菜使用量、調理工程、調理時間、動画構成、撮影方法および担当者の役割を決定する。											
授業計画【第10回】	調理・動画撮影実習 作成した計画に基づいて調理実習を行い、野菜70gの量、料理への取り入れ方、調理工程、時短の工夫等を動画撮影する。食品衛生および安全管理にも配慮する。											

授業計画 【第11回】	動画編集・栄養教育媒体の作成 撮影した映像を編集し、地域住民が短時間で理解し、実践につなげられる栄養教育動画を作成する。内容の正確性、視認性、分かりやすさ、情報量および科学的妥当性を確認する。
授業計画 【第12回】	地域連携型集団栄養教育の実践 地域住民を想定し、地域の健康・栄養課題に対応した栄養教育を実践する。作成した教材や動画等を用い、対象集団の反応を確認しながら実施する。
授業計画 【第13回】	栄養教育の評価・データ集計 臨床および地域における栄養教育について、参加状況、理解度、学習目標の達成度、行動意図、教材・動画に対する評価等のデータを収集する。ICTを活用してデータを集計し、表やグラフ等で可視化する。
授業計画 【第14回】	評価結果の解釈と改善 プロセス評価、影響評価および結果評価の観点から評価結果を解釈し、目標、教育内容、教材・媒体、動画、実施方法および評価方法の改善案を作成する。
授業計画 【第15回】	成果発表・総合評価 臨床および地域における集団栄養教育の企画、計画、教材・媒体、調理実習、動画制作、実施、評価および改善の成果を発表する。地域連携、ICT・生成AI活用を含めた栄養教育マネジメント全体を振り返る。
授業の到達目標	1. アセスメント結果から、対象集団のライフステージ、生活背景、健康・栄養課題および学習ニーズを把握し、課題を整理できる。 【DP1-(1)、DP2-(1)】 2. 対象集団の課題に応じて、学習目標、行動目標、教育内容および評価指標を設定し、集団栄養教育計画を作成できる。 【DP1-(1)、DP2-(1)】 3. 傷病者の病態、治療方針、生活背景および栄養課題を踏まえ、臨床場面における集団栄養教育を計画・実施できる。 【DP1-(1)、DP3-(3)】 4. 対象集団の生活背景、価値観および理解度等を考慮した指導案、講義計画および教材・媒体を作成できる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	今回の実習で扱う設定事例、病態、地域課題、実習手順および評価基準を確認する。必要に応じて、関連する教科書、講義資料、行政資料および科学的根拠を調べ、グループ内で担当する作業の準備を行う。臨床集団栄養教育を行う回については、対象疾患の病態、治療および栄養管理について確認する。 調理・動画制作を行う回については、レシピ、食材、調理工程、動画構成、台本および撮影方法等を事前に検討する。 目安：1時間
授業時間外学習【復習】	実習で作成した栄養教育計画、講義計画、教材・媒体、動画、データ集計結果および発表資料を見直し、教員・学生からのフィードバックを踏まえて修正する。 生成AI等を活用した場合は、AIによって生成された内容と学生自身が確認・修正した内容を振り返り、情報の正確性、科学的根拠、対象者への適合性、著作権および情報倫理について確認する。さらに、個人振り返りシートに、達成できたこと、改善が必要なことおよび次の行動目標を記録する。
課題に対する フィードバック	栄養教育計画、講義計画、教材・媒体、臨床模擬集団栄養教育、調理・動画制作、地域連携型栄養教育、データ解析結果および課題レポートについて、評価基準に基づき授業内でフィードバックを行う。 模擬集団栄養教育およびグループ発表後には、教員による講評、学生間の相互評価および自己評価を実施する。教材・動画については、科学的妥当性、対象者への適合性、分かりやすさ、実践可能性等の観点からフィードバックを行う。提出された課題については、必要に応じて個別または全体で解説を行う。
評価方法・基準	以下の学修成果を総合して評価する。 1) 個人課題・実習レポート：40点 個人課題、臨床・地域の評価課題、生成AI活用に関する検証、実習の振り返り等 2) 栄養教育の計画・実施に関する成果：50点 臨床・地域の栄養教育計画、講義計画、教材・媒体、模擬集団栄養教育、調理・動画制作、評価・改善等 3) グループ活動：10点
テキスト	『栄養教育・栄養指導論（演習・実習） 第3版』 堀田千津子・平光美津子・澤田樹美 編著 みらい
参考書	健康・栄養科学シリーズ『栄養教育論』丸山千寿子・足達淑子・武見ゆかり 編集 南江堂 『行動変容のための面接レッスン 行動カウンセリングの実践』足達淑子著 医歯薬出版 『ライフスタイル療法! 第4版 生活習慣改善のための行動療法』足達淑子著 医歯薬出版 ほか適宜紹介する。
備考	担当教員は、医療機関において傷病者に対する栄養管理および栄養指導に従事した実務経験を有する。この経験を活かし、傷病者の病態、治療方針、生活背景および栄養課題を踏まえた臨床における集団栄養教育の計画、教材作成、実施および評価に関する実践事例を授業に取り入れる。また、学校、行政、スポーツ現場および企業等における栄養教育・健康支援ならびに共同研究等の経験を活かし、集団や地域・組織を対象とした栄養教育の計画・教材・媒体作成・実施体制・評価および改善に関する実践事例を提示する。